

VI 常設委員会

教育予算委員会

1. 構成員

<委員長>松谷美和子

<委員>廣瀬清人(教養・基礎系)、松谷美和子(基礎看護系)、亀井智子(臨床看護系Ⅰ)、萱間真美(臨床看護系Ⅱ)、高橋昌子(教務部)、島田裕司・豊島景子・森島久美子(事務局経理課)

2. 役割・職務

当該委員会は、規程、組織図に位置づけられていない特別委員会の性質をもつ委員会である。役割・職務は以下のとおりである。

- 1) 学部および大学院等の正規の教育活動および委員会活動に係る次年度予算の申請を概算要求基本方針に基づいて調整し、とりまとめる。
- 2) とりまとめた申請予算について、学園理事長、学長および事務局長への報告を行う。

3. 活動内容

- 1) 2010年度教育予算について、次のように予算申請の調整を行い、予算総額49,201千円とした；
 - (1) 予算委員会の開催回数：予算委員会日程調整、予算申請書の審査、修正予算の確認、および報告書作成を含め、合計4回開催した。
 - (2) 教育予算基本方針：教育予算検討にあたり、2010年度は教育の質の担保に必要不可欠な予算を優先し、可能な限りの経費の節減を行うこととした。
 - (3) 予算申請に関する説明会：2009年10月27日に全教職員に「予算編成方針」、「2010年度の教育予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」、「予算申請用紙」等をイントラにアップするとともに、予算申請に関する説明会を行った。説明会において、2010年度の教育予算総額は45,000千円以内であり、昨年度同様2008年度予算の一割減を目標とする旨を伝達した。

(4) 予算調整：

第一次予算申請総額は58,319千円であったので、13,319千円の削減が必要であった。このため、申請された教育予算について、以下の確認を行った。

- ①授業に関する科目予算および教務予算については、i. 申請根拠、ii. 優先度、iii. 教育内容・方法および単位数、iv. 研究費との関連の4点をもとに、教育予算として妥当であるか否かを検討した。
- ②委員会活動予算については、委員会活動の内容と照合し妥当であるか否かを検討した。

2) 2010年度予算調整結果：

申請内容を精査し、ヒアリングをし、最大限の削減調整を行った結果、最終予算は49,201千円となった。

- (1) 教育・研究活動に不可欠なIT関連の保守・整備（図書館予算21,881千円、情報システム委員会予算33,011千円）については、補助事業で審議すべき大学全体にかかる費用として別途計上した。
- (2) 授業に関連する科目予算は、必要教材の資料添付を求めるとともに、ヒアリングを行い、実質的に必要な予算のみを計上することを徹底した。
- (3) 委員会活動予算については、活動計画の添付がないため、これまでの実績から妥当性を判断した。
- (4) 2010年度のみ申請、新規の申請については必要性について説明を求めた。
- (5) 予算執行にあたっては、教職員一同はより一層の節約に努めることを周知した。

4. 課題

2010年度予算の調整過程において認識した5つの課題を以下にまとめた。

- 1) 大学全体の長期および短期将来構想に基づいた単年度計画の明確化とその予算化を実現する

ため、申請予算の検討に先立ってこれらが明らかにされる必要がある。

- 2) IT 関連の経費は高額となる傾向にあるため、計画的な予算化が不可欠である。これらの設備は、大学情報発信および収集システムとして大学教育・研究活動の要所を担う部分に大きな影響を与える。このため、情報システムの保守・整備、ホームページの改訂・管理等の予算化を重視することが本学の発展に必要である。
- 3) 昨年度申請との相違および新規予算に関しては、朱書きとし、申請根拠となる計画書の添付を求めたが、100万円以上の高額な支出の予算化については、事前にコンペティションを実施するなどの最大費用対効果をめざした具体的な取組と努力を義務づけることが必要である。
- 4) 委員会活動予算については、次年度活動計画書の添付を求める。
- 5) 大学院社会人学生への研究費について、一般学生への支給総額と同様、年限ではなく授業料に見合った支給を検討する必要がある。

広報委員会

1. 構成員

＜委員長＞江藤宏美

＜委員＞大森純子、卯野木健、伊東美奈子、
進藤 務、福田 昌

2. 役割・職務

2009年度の広報委員会は、「キリスト教精神を基盤として、看護保健の職域に従事する看護専門指導者の育成を目的とする」という大学のミッションや、ビジョンを踏まえ、大学広報戦略の検討、学外に向けた広報活動の企画・実施（大学説明会・オープンキャンパス、冊子の作成・配布等）、また、今年の新企画として大学院生に向けた広報活動を展開した。

3. 活動内容

1) 大学広報戦略の検討

- (1) 大学広報戦略案の作成：11月の部課長会議で戦略案の骨子を提示した。（広報資料1）
- (2) 大学広報セミナー・入試研究会などへの出

席：受験生の傾向や広報戦略についての情報を得た。

2) 広報活動実績

学部受験生対象：3～13項、大学院受験生対象：14～15項

- (1) オープンキャンパス・大学説明会の開催（**広報資料2**）
- (2) 白楊祭への参加：連日来校者100名以上に、受験生相談コーナー開設（保護者への説明含）と学生生活スライドショーの上映を行った。大学の理解が深まり、受験への不安が軽減したという評価を得た。
- (3) 見学者への対応：毎週火・金曜日に個人、中高の学校単位を対象に見学依頼に対応した。個人対象は83名、学校は4校53名であった。（**広報資料3**）
- (4) 聖路加国際病院「1日看護体験」での大学紹介：大学案内パンフレット等を配布し、説明を行った。
- (5) 予備校等での入試相談会：夏季相談者数107名、冬期相談者数56名であった。（**広報資料3**）
- (6) 高校への出前授業の実施：11月に千葉市立稲毛高校（参加者22名）で、テーマ「感染症とその予防 Know your disease～有効な対策・気休め・誤解」について、講演を行った。（**広報資料3**）
- (7) 学生による母校訪問：新企画である。夏休み期間中の母校訪問36名（36校）が行った（うち郵送7名）（**広報資料3**）。また、16名が大学生活のワンショットと教員のコメントを添えたポストカード作成した。この企画は、次年度も継続していく予定である。
- (8) 大学案内パンフレット改訂版の作成：作成部数6,500部。大学説明会や大学訪問者、学外での入試相談会やその他、学外へ機会あるごとに広く配布した。今後、ホームページとあわせて重要な広報誌となる。
- (9) 受験生向け情報誌「ウエルカム」改訂版の作成：作成部数2,500部。在校生の生の声を反映させた本誌は、大学説明会を中心に配布し、受験生に好評であった。
- (10) 広報掲載：キリスト教年鑑、高校生新聞、聖公会手帳、教育學術新聞、新宿セミナー等

に掲載した。

- (11) 学生広報委員会との協働：年間9回の委員会を開催した。イベントの前後には複数回行った。
- (12) 大学院リーフレットの作成：作成部数2,000部。今年度の新企画である。リーフレットがすぐに受験につながる訳ではないと考えられ、数年様子を見る必要がある。今後はホームページの充実に伴って、電子媒体での配信も効果的であるかもしれない。
- (13) オープン研究室の開設：オープンキャンパス時に、大学院担当教授の研究室訪問を企画した。参加者は若干名であったが、オープン研究室等で面接のハードルを下げることは有用であると考えられるため、次年度も継続して行っていく。

4. 今後の展望

これまでの活動に加えて、ますます拡大する広報に対して、教職員・学生の参画と効率性が重要にな

ってくる。

- 1) 広報活動への全学的な啓蒙・取り組み、学内各委員会との連携や学生広報委員会とのさらなる協働：

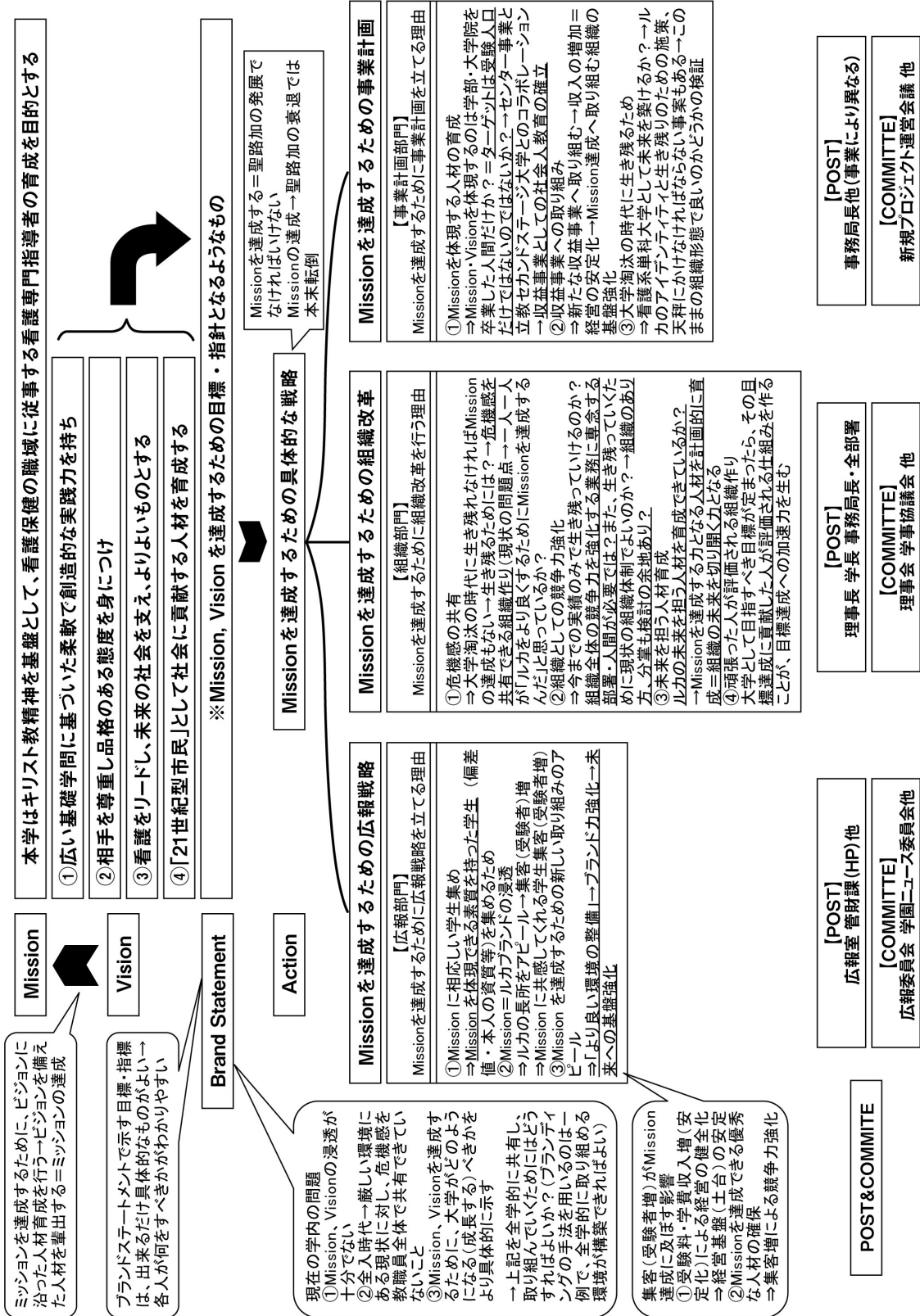
広報方針の決定、その実施に至るまで、学内のネットワークと自主性が重要である。全学的な広報活動に対する意識改革と組織化、決断と知恵とマンパワーが必要とされる。オープンキャンパスなど学生広報委員会との新企画を進めていく。

- 2) 広報の媒体、特にホームページの充実を含むインターネットの検討：

今後はホームページの充実が、広報の核となっていくと考える。コンテンツの検討を行い、わかりやすい画面での情報提供（案内）、学内組織の情報ソースの統合、教職員・学生の自主的な活動の紹介等の情報交換の場づくりなど、ホームページの利点を生かして、魅力的なサイトづくりに力を注いでいく。

聖路加看護大学 組織改善案【例：ブランド戦略展開図】

2009年度 広報資料1



オープンキャンパス

1. 実施日・集客数

例年通り3回実施・集客数は毎年増加傾向。
集客数は各回前年度よりも50名～100名程度多かった。

- 5/23 (土) AM 総数204人
(一般 97 学士41 院生 5 保護者 61)
- 8/1 (土) AM 総数502人
(一般311 学士22 院生 5 保護者164)
- 8/2 (日) AM 総数574人
(一般327 学士39 院生 4 保護者204)

2. 案内

例年通り 大学HPの掲載・予備校へのポスター・チラシ配布

3. 体制

学生広報委員と協働運営で行った(学生：懇談会場や記録係)

- 8月は、2日間、オープン研究室も開催した。
- 学生ボランティアに大学院生も入れた(社会人も含め2人ずつ配置)

4. プログラム

例年通り、8月に日野原理事長の生出演を入れた。

5. アンケート結果

- 1) 学生との懇談会や学内ツアーを通じた交流が大変好評であった。学生やスタッフの対応についても好感を得た。
- 2) 高校3年生の参加が約半数と多いが、1・2年

生の参加もあった。また、大学生・社会人の参加も高校3年生に次いで多かった。

- 3) 情報源としては、「大学HP」が圧倒的に多かった。
 - 4) もっと知りたい内容としては、「入試に関すること」が多かった。
 - 5) 「個別に相談できる時間が欲しかった」との希望もあった。
6. その他

- 1) 懇談会を希望せず学内ツアーのみ希望する保護者グループができ、個別対応した。
- 2) 次年度は集客定数(580)を超えることが見込まれる。
- 3) 集客数の増加と、個別対応のニーズの高まりから、教職員・学生の有志によるスタッフ登録ではマンパワー的に対応できなくなってきた。
- 4) 進学高校の場合、土曜日は授業や補講があるためか、日曜日の来所者が多かった。

7. 今後の検討課題

これまでの踏襲では限界があるため、次年度からは、新たなる展開方法(日程・体制・プログラム・スタッフなど)を考える必要がある。

オープンキャンパスは、学部・大学院受験志望者向けの大学説明会であるため、オープン研究室と分けて検討する必要がある。同日に開催するのは効果的だが、責任の所在の問題と作業の煩雑さから、別担当・別企画とする。

学部受験生に向けた広報活動

1) 見学者への対応

個人対象は83名学校対応は下記の通りであった。

実施月日	学校名	見学人数	本学対応者
5月20日(水)	秋田県大館市立第一中学	2	長松
10月8日(木)	広島県立呉宮原高校2年	11	大久保
10月15日(木)	新潟県立糸魚川高校2年	25	奥
12月4日(金)	新潟県立柏崎常盤高校2年	15	松谷

2) 予備校等での入試相談会

新宿セミナーにおける夏期・冬期合同入試ガイダンスについて

実施月日	場 所	相談者数	参加校数	来場者数	本学出席者
7月5日(日)	東京アカデミー池袋校	11	25	88	進藤
11日(土)	新宿セミナー新宿校	38	65	524	大久保、進藤
15日(水)	新宿セミナー立川校	7	48	209	小黒、進藤
16日(木)	新宿セミナー柏校	14	32	153	飯岡、進藤
18日(土)	新宿セミナー横浜校	14	28	231	進藤
18日(土)	新宿セミナー千葉校	23	43	179	稲田、福田
計		107人		1384	

実施月日	場 所	相談者数	参加校数	来場者数	本学出席者
12月12日(土)	新宿セミナー横浜校	9	25	108	江藤
17日(木)	新宿セミナー新宿校	26	45	343	森、佐居
18日(金)	新宿セミナー大宮校	8	27	54	進藤
19日(土)	新宿セミナー千葉校	5	24	89	大熊、長松
21日(月)	新宿セミナー立川会場	8	38	120	進藤
計		56人		714	

3) 出前授業

実施月日	学 校 名	受講人数	本学対応者
11月9日(月)	千葉市立稲毛高校	22名	堀

4) 学生による母校訪問(地域別件数)

地 域	件 数
東京	14件
関東甲信越	16件
中国	1件
中部	4件
東北	1件

情報システム委員会

1. 構成員

- <委員長(部課長)> 萱間真美、
- <委員> 吉田千文、大坂和可子、高鳥直人、
中島薫、平良智子、佐藤晋巨、秋山武
則(SE)、秋山敦司(SE)

2. 役割・職務

- 1) コンピュータシステムに関する運用、管理上の諸問題の検討
 - ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク利用規程
 - ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程
 - ・情報システム委員会規程

2) システムの運用の向上を図るための企画

にとって必要なプリント枚数管理システムを提案すること。

3. 活動内容

1) 新入生および在校生について、コンピュータ利用に関するオリエンテーションを実施し、コンピュータネットワークの適正な利用を促した。さらに学生情報システム委員会学生の積極的な参加を促すための役割分担を行い、情報システムに関する情報共有・意見交換を行った。情報リテラシーおよびマナー向上によって利用しやすい環境となるよう、今年度は新たな試みとして学生委員が主体となって情報倫理ガイドブックの見直しと改訂を行なった。

2) 教員からの要望を受け、UMIN サーバーへのSSH 通信変更に伴う、大学内のファイアウォールの設定を変更した。加えて、研究用インターネット回線について、場所（会議室）ならびに対象者（常勤教職員）を限定し、開設した。これに伴う学内での Skype 利用については利用申請書の提出を義務づけることとした。

3) コンピュータネットワークシステムの整備状況については、本館の縦幹線を将来にむけてギガビット対応にし、それに伴う各フロアのスイッチ類を入れ替えた。また、操作性の改善のため、新プリンタシステムを導入した。

4. 課題

1) 新システムの導入により、端末ごとのトラブルが減少、プリンタシステムの改良により誤印刷が減少するなどのメリットがあった。今後ともサーバーを安定的に運用し、情報システムを活用するために、新サーバーの導入と構築、個人プロファイルの定期的更新によってサーバーの不可を軽減しつつ運用を進めていくこと。

2) 学生情報システム委員会が情報倫理ガイドブックの改定に積極的に関与するなど、委員会への学生の参加によって情報リテラシーへの関心の向上がみられている。今後は各学年に最新のシステムに関する情報、トラブル事例や対処方法などを継続的に情報提供し、引き続き意識の向上に努めること。

3) 来年度で4年間のプリント枚数実態調査が区切りを迎えるため、現状と必要性に鑑み、本学

国際交流委員会

1. 構成員

<委員長> 深谷 計子、
<委員> 梶井 文子、奥 裕美、細川 恵子、
中島 薫

2. 役割・職務

国際交流委員会規程に基づく。

3. 活動内容

1) タイ・マヒドン大学ラマティボディ校交換研修参加者（認定申請者3名）及び韓国・ヨンセイ大学交換研修プログラム参加者（認定申請者2名）に対する単位認定

2) ①ヴィラノバ大学夏季交換研修生（1名）受け入れプログラムの実施

②マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）受け入れプログラムの実施

③マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）派遣学生の募集、選考

④第24回 ICN 4年毎大会（南アフリカ・ダーバン）参加学生募集・選考

3) ①学生国際交流委員会による交換研修生歓迎会、交流プログラムの企画及び実施

②外国語講座の企画・実施（タイ語講座[12月2日実施]／講師：堀成美）

4. 課題

1) 交換研修受入プログラムの実施について、例年、参加学生から、看護科目の授業への参加希望があるが、プログラムの実施言語が英語のため、企画の幅が限定される。

2) 留学生のホームステイ（2泊3日）実施にあたり、本学学生及び同窓生に協力を呼びかけているが、受け入れ先の確保が毎年難航している。

3) 交換研修プログラム派遣予定数に対し、応募者数が少ない。

4) 交流プログラム企画と学業多忙の時期が重なり、企画担当者が周囲の学生の協力を得にくい

場合がある。

- 5) 委員会規程にある学生国際交流委員会の活動
内容「本学の国際交流の活性化や広報活動への

協力、学生の立場からの意見の提示」について、
取り組みが活発でない。

5. 資料・データ

表 交換研修プログラム等実績

	国	学校・プログラム名	滞在期間	参加者名
受 入	タイ	マヒドン大学	2009年5月7日(木) ~5月20日(水)	シリラート校： Nantakarn Maneejak (3年生) Rungnapa Ruchob (3年生) ラマティボディ校： Saowanit Yanpisitkul (3年生) Tanyapron Karnsumrit (3年生)
	韓国	ヨンセイ大学	2009年6月29日(月) ~7月11日(土)	Lee Hae Won (4年生) Moon MiReu (4年生) Bang Gi Sun (3年生) Cho You Rim (3年生)
	米国	ヴィラノバ大学	2009年6月28日(日) ~7月25日(土)	Megan Carey (3年生)
派 遣	南アフリカ	ICN 4年毎大会	2009年6月29日(月) ~7月4日(土)	山崎博子(学士13回生)
	タイ	マヒドン大学 ラマティボディ校	2009年8月17日(月) ~8月28日(金)	岡本幸子(学士12回生) 井田早希(2年生) 小林 歩(2年生) 田中菜央(2年生)

表彰運営委員会

1. 構成員

<委員(教職員)>山田雅子、小林真朝、細川
恵子、櫛田智恵美、畠山小巻

<委員(学生)>福田晴香、松本真緒、横川彩
夏、岸本梨沙、小林俊介、高取由美、
横林典子、和田真奈美

2. 役割・職務

学生や教職員が互いの努力を称え、感謝の気持
を伝えあう機会を作ることを目的とする。

3. 活動内容

昨年度の表彰について、教員・職員よりアンケート
を通して意見を集約し、2009年度の表彰システム
の再検討を行なった。今年度は特に、ランキングを
重視しないこと、教員・職員・学生・関係者を広く
表彰の対象とすること、表彰者決定のプロセスを分
かりやすく伝えることに留意し、1月22日(金)の

表彰式に向け、表彰に関する企画・運営を行った。

表彰については、学園ニュースと看護ネットに紹
介された。

4. 課題

表彰式当日に行なったアンケート結果では、概
ねよかったとの評価をいただいた。表彰等の対象と
なった教員・職員・学生・関係者、グループについ
て、年間を通して学内関係者に通知する方法を検討
し、よりよくお互いを知り合う機会を増やしてい
くことが課題である。

また、今年度はじめて実施した、卒業論文のポ
スター展示も領域が異なるクラスメイトの研究内容
を知ることができるということで、概ね好評であ
った。今後もポスター展示による発表を続けるので
あれば、委員会活動ではなく、学内行事の位置づけ
にしていくことについても検討していく必要がある
と考える。今後の課題としたい。

表57 表彰および紹介対象者一覧

項目	表彰及び紹介対象者
グッドプレゼンター賞	鈴木彩加さん（4年生）
グッドティーチャー賞	伊東美奈子さん（基礎看護学）
チャブレン賞	平井麻子さん、本城加奈子さん、山口恭子さん、山崎博子さん、遊馬早季さん（学士13回生）
グッドボランティア	いちごフレンド、ナイトフレンド、だいじょ部、聖歌隊、手話部、学生課の皆さん、吉野靖代さん（4年生）、安田みなみさん（2年生）、小原希さん（学士11回生）、山口保菜未さん（1年生）、佐々木浩子さん（1年生）桑原さん（修士2年）
SL スター	ケビン・シーバーチャブレン、越敏治さん（用務）、萱沼義三さん（用務）、池ノ上久美子さん（清掃）、嵯峨高子さん（清掃）、進藤務さん（事務）、伊藤節子さん（学食）、千葉千栄子さん（同窓会）、南由起子さん（TA）、Class of 2012の皆さん、安田みなみさん（2年生）、宇田川愛さん（4年生）糟谷祥子さん（学士13回生）、日野原重明理事長が称えられました。

学園ニュース委員会

1. 構成

- <委員長> 伊藤和弘
- <委員> 片岡弥恵子 角田 秋 稲田昇三

2. 役割（規程）

学園ニュースの発行
委員会規程は未設定

3. 活動内容

学園ニュース No. 286から No. 290を5号編集・発行した。掲載記事概要は下記のとおり。

No.	発行日 発行部数	巻頭記事／特集／その他	備考
286	2009年 4月27日	トップ「聖路加看護大学における看護学事始」 学長 井部俊子	
	850部	特集 新入学生からの一言集「ルカに新しいお仲間が入りました」 新入教職員からのひとこと	
		特別 2006年度ノーベル平和賞を受賞された ムハマド・ユヌス博士講演会	
287	2009年 7月10日	トップ「ナースのキャリアアップ」 看護実践開発研究センター長 山田雅子	学生家族にも 送付
	1,100部	特集 ナースのキャリアアップ～認定看護管理者講習および認定看護師教育 課程について 体育 Day 「青春爆発・体育 Day!!」	
		特別 広報委員会 動画の「キャンパスライフ」が完成 危機管理対策委員会 「危機」に備えて 新型インフルエンザ(A/H1N1)に関する対応 INFORMATION 2008年度決算報告	
288	2009年 10月29日	トップ「『自校教育』の現在」 客員教授 渡部尚子	学生家族にも 送付 90周年を控え、 自校教育につ いて理解を深 めていただく ため
	1,150部	特集 聖ルカ自校教育の現在 私の夏休み	
		特別 ホルツマー先生への称号を 孫庚春先生に名誉学士号を贈呈 寄稿 “Thank all of you” Megan Carey (ヴィラノバ大学からの留学生)	
289	2009年 12月18日	トップ「クリスマスに寄せて」 理事長・名誉学長 日野原重明	学生家族にも 送付 印刷を2色印 刷に、印刷会 社をミズノプ リテックに変更
	1,200部	特集 クリスマス特集 第33回 白楊祭「絆（きずな） ～つなげていこう、大きな愛～」	
		活動レポート	

290	2010年 3月4日	トップ「卒業生・修了生へ 門出を祝して」 学部長・研究科長 菱沼典子	学生家族に主 に送付
	1,150部	特集 創立90周年を祝う 記念講演会講演録 高雄医学大学 鍾信心、理事長 日野原重明 卒業・修了 おめでとうございます (ひと言集)	
		INFORMATION 2010年度予算	

4. 課題

- 1) 昨年度より企画していた2色印刷を No. 289より実現させた。
- 2) 学生への配布方法の検討。従来多くの部数が返品されてきたため、今期より必修授業の機会を捉えて、学生一人ひとりに直接手渡すことも実施し、配付数を高めることができた。まだ実習期間中の学生などに配布する方法が不十分である。
- 3) 2色印刷化に伴い、来期より年間発行回数を4回にする予定(従来5回)。

紀要委員会

1. 構成員

- <委員長> 深谷計子
- <委員> 實崎美奈、金森亮子、田口瞳

2. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学紀要委員会規定を参照。

3. 活動内容

- 1) 紀要第36号の発行にあたり、企画、編集作業を行った。
 - (1) 4、5月に投稿募集をファカルティミーティング及びメールで呼びかけ、6月に投稿予定者の確認を行った。
 - (2) 複数の印刷業者に見積もりを依頼し、印刷業者(瀬味証券)の選定を行った。
 - (3) 10月に原著、11月にその他の原稿を受け取った。受け取った原稿のうち、原著、研究報告は、全て適当な第三者にその査読・審査を依頼し、編集作業を進めた。
 - (4) 今年度は、22編の申請があり、最終的に研究報告3編、短報12編の計15編が受理された。
- 2) 投稿要項の見直しを行い、提出書類において、

原稿部数、電子媒体の種類・提出時期、英語論文要項の内容の一部を改訂した。

- 3) 3月15日に600部を配布した。

4. 課題

今年度の課題として以下を挙げる。

- 1) 原著論文の投稿数を増やすこと
- 2) 原稿の提出期限の厳守

オリエンテーション/FD・SD委員会

1. 構成員

- <委員長> 菊田文夫
- <委員> 飯岡由紀子、永森久美子、留目宏美、山本由子、佐藤晋巨、豊島景子

2. 教員の研修

本学教職員の教育・研究活動能力および実務能力の向上を目的として、教職員研修会などを企画・運営した。

1) 教職員研修会の開催

2009年度は、研修会を3回実施した。詳細については、以下のとおりである。

(1) 第1回 FD・SD 研修会(自由参加)

日 時: 2009年 7月23日(木)

17:30~19:00

会 場: 402教室

テーマ: 「ベストティーチャーの教育活動の工夫」

講 師: 卯野木健、佐居由美、瀬戸屋希、安ヶ平伸枝(本学教員)

(2) 第2回 FD・SD 研修会(自由参加)

日 時: 2009年 8月5日(水)

17:30~19:00

会 場: 402教室

テーマ: 「魅力的な授業をつくるには」

講師：岸本修二（中央区立明石小学校長）
(3) 第3回 FD・SD 研修会（原則として教職員参加）

日時：2010年3月15日（月）

13：00～16：30

会場：301教室

13：10 ～ 「魅力的な授業をつくるには」
藤原顕（兵庫県立大学看護学部）

14：30 ～ 科目名「健康科学」における
健康行動に関する授業案の作成
（グループワーク）

15：30 ～ グループワークの分かち合い

2) 新任教職員ガイダンス

2009年度4月に採用された教職員を対象として、関係部署の協力の下に、新任教職員ガイダンスを実施した。

日時：2009年4月1日（水）

内容：大学の理念と概要、学部教育と大学院教育、教務部、学生部、事務部、看護実践開発研究センター、その他

2. オリエンテーション・セミナー

1) セミナーの開催

本学学部入学生を対象として、本学の理念およびカリキュラムへの理解、上級生や教職員との交流、さらに新入生相互の交流などの促進を目的に、2009年度新入生94名を対象としたオリエンテーション・セミナーを、財団法人キープ協会清泉寮において開催した。なお、本セミナーは、上級生25名ならびに教職員25名の協力の下に実施されたものである。

日時：2009年4月10日（金）、11日（土）

1泊2日

場所：財団法人キープ協会清泉寮
山梨県北杜市高根町清里3545)

2) プログラムの概要

4月10日（金）キープ協会正木実専務理事講話

「ポールラッシュ先生のミッション」ポールラッシュ記念センター見学

レクリエーション・上級生企画

4月11日（土）井部俊子学長講演

「本学の歴史と理念」

菱沼典子学部長講演「大学で学ぶ」

グループワーク「春を探そう、仲間を知ろう」・グループワーク分かち合い

3. 課題

本年度は、新たな試みとして、教職員がともに学びあえる FD・SD 研修会を企画した。しかしながら、教職員へのアンケート結果をみると、参加者全員が満足できる内容を実施するのは困難であることがわかった。そこで、来年度は、通年テーマを設定せず、教員対象の研修会と職員対象の研修会を、それぞれ年2回別立てで実施することを考えている。

オリエンテーションセミナーについては、ポールラッシュ記念センターの見学手順、レクリエーションの内容と場所、上級生企画で使用する PC や AV 機器類の調整、新館レストランにおける食事の提供方法に関して、特に改善の要望が寄せられており、来年度の企画に活かしたいと考えている。